

フランス語初学者を対象とした発音指導

著者名(日)	田口 亜紀
雑誌名	共立女子大学・共立女子短期大学総合文化研究所紀要
巻	24
ページ	41-51
発行年	2018-02
URL	http://id.nii.ac.jp/1087/00003173/

フランス語初学者を対象とした発音指導

田口 亜紀

はじめに

新しく外国語を学ぶ場合、一般的に学習者は、自分の母語に存在しない文法や音声の修得に困難を覚える。では、その外国語が第二外国語のフランス語の場合はどのような指導ができるだろうか。フランス語は英語と同じアルファベット（アルファベ）を使い、類似する要素が見られるため、フランス語の授業ではフランス語初学者が英語を既習している前提で、初級文法では学習者に英語から類推させることもある。しかし実際には数多くの違いがあり、発音に関しては、フランス語を学び始める時点で、学習者にフランス語特有の音に慣れさせる必要がある。

フランス語の発音を指導する際、教室では以下の大きく二通りの方法のどちらか、あるいは両方が採用されていることが多い。一方は、学習者には説明なしで、聞いたままの音をまねさせる方法で、他方は意識的に口（舌、唇、息）の動かし方をトレーニングさせる方法である。その中にはジェスチャーや口の中のイメージを喚起することも含まれる。前者のような、まねをしているうちに身につくというアプローチは、頭で考えるよりも体で覚えるという考え方に基づいており、目標はとにかく発話内容の伝達なので、初学者に発音の難解さを感じさせにくいという利点がある。

しかし、フランス語の音声体系は日本語とは異なっており、日本語を母語としている成年の聴覚器官では、日本語にないフランス語の音素を聞き取ることができない。自分の耳で聞き取れない音を、発音することはできないのである。従って教室では、聞いたままフランス語を発音させるという方法を採用しても効果が上がらないこともよくある。そこで音を作るメカニズムを知って、どのように発音するのかを理解させる方法を導入する必要がある。教室ではリアルタイムで教師の指導を受けることができるが、学習者が自習する場合、正確な発音の知識を理解する必要がある。以下は、フランス語初学者向けの自習用補助教材として活用することを目指した資料である。

フランス語の音声の特徴

- ・唇、舌、口の形を作り、十分に緊張させて、明瞭に、音をよく響かせて発音する。
- ・フランス語の母音には「わたり」がない。「わたり」とは英語の二重母音のように、ひとつの母音からもうひとつの母音へと緊張を緩めて、徐々に移っていくような現象である。ひとつの音を出している間は、口の形を変えずに、緊張を緩めない。
- ・フランス語では音声は無声化しない。日本語の「い」と「う」の音は、声帯の震えがなくなることがあり、これを無声化という。しかしフランス語では母音が無声化することはないので、常に明瞭に発音する。

資料編 フランス語の発音

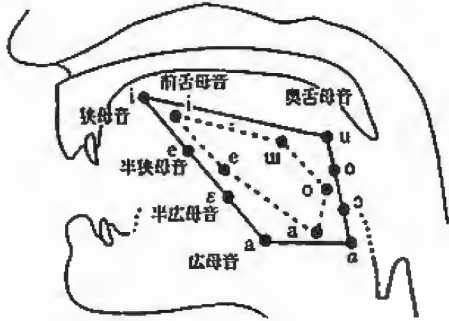


図1 母音の調音点 (参考文献8) より)

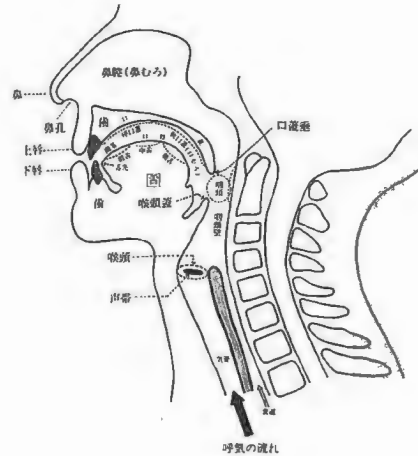
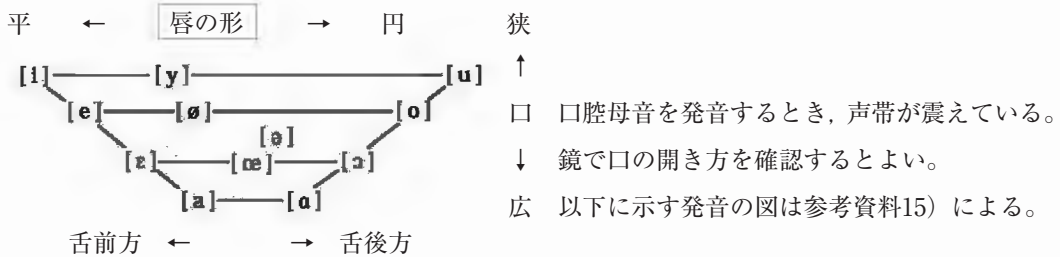


図2 発音に関わる各器官の名称 (参考文献11) より)



1) 口腔母音 2) 鼻母音 3) 子音 4) 半母音 (半子音) の順に説明する。

1) 口腔母音

① [i] [e] [ɛ] 前舌母音 日本人が発音しやすい母音だが、注意が必要である。

[i] 対応する綴り : i, î, y, 単語の例 : ici, île, y) ほかに英語由来の meeting など



唇は横に開いている。舌は盛り上がり、前方にある。
日本語の「い」よりも、唇の端を左右に強く引き、その緊張のために鋭い音に聞こえる。

[e] 対応する綴り : (開音節で) er, ez, é, 単語の例 : aller, allez, été, (後述のように aider の ai は [e] 又は [ɛ])



唇は横に広げ、あごをやや下げる。
舌の盛り上がっているところ (矢印の位置) は、前方にある。日本語の「え」よりも、口が横に引っ張られている。

[ɛ] 対応する綴り：(閉音節で) e ; è, ê, ai, ei 単語の例 : dette, père, forêt, mais, Seine
(ai, et, ê は [e] で発音することもある。) 舌は横に広げ、あごをやや大きめに下げる。鏡で見ると、前歯が見えている。



舌の盛り上がっているところ(矢印の位置)は下がり、前方にある。

② [y] [ø] [œ] 複合母音 日本語にも英語にも複合母音は存在しないので、日本語話者が苦手とする母音である。後述の③の後に練習するとよい。

①, ③の発音ができれば、②に取り組む。

②では、まずは [ø] [œ] の音の聞き取りを行い、日本語にはない音に慣れる。

次に③で練習した [u] を聞き取り、[ø] [œ] との違いをつかむ。

[u] と [y] の違いを聞き分け、本資料の説明に沿って発音する。

次に [y] から口の開きを広げていき、[ø] [œ] の順に練習する。

[y] 対応する綴り：u, û, 単語の例 : tu, sùr (例外 : être の過去分詞 eu)



[i] のようにして、舌尖を下の歯裏につけ、唇を強く丸める。その時に舌が後ろに下がらないように気をつける。舌を前に押し出す要領で発音する。

[ø] 対応する綴り：(開音節で) eu, œu, 単語の例 : peu, des œufs



口の狭い [e] のようにして、唇を丸める。その時に舌が後ろに下がらないように気をつける。

[œ] 対応する綴り：(閉音節で), eu, œu, euil (le) 単語の例 : peur, un œuf, feuille

他にも ueil 単語の例 accueil



口の構えは広い [ɛ] のようにして、唇を丸める。その時に舌が後ろに下がらないように気をつける。

③ [u] [o] [ɔ] 後舌母音

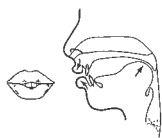
[u] 対応する綴り：ou, où, ôu, 単語の例；tout, où, soul

英語由来の単語 foot, cool, clown, pudding など



まずは口の端を左右に引っ張り、そこから横から内側に向かって唇を丸めようとしてみる。唇が丸まって突き出ていることが重要である。唇は後ろに引く。日本語の「ウ」とは違って、のどの奥から暗く立ち上ってくるような音である。

[o] 対応する綴り：開音節の o, ô, au, eau, 閉音節の場合, [z] の前の o, 単語の例：vos, têt, sauce, château, chose



「狭いオ」とも呼ばれる。

まずは口の端を左右に引っ張り、そこから横から内側に向かって唇を丸めようとしてみる。[u] より、口が上下に開いている。唇は後ろに引く。日本語の「オ」とは違って、唇は丸まって突き出ている。

[ɔ] 対応する綴り：閉音節の o, 単語の例：école ほかにも maximum, rhum, album, alcool など。



「広いオ」とも呼ばれる。

まずは口の端を左右に引っ張り、そこから横から内側に向かって唇を丸めようとしてみる。しかし [u], [o] よりももっと、口が上下に開いている。唇は後ろに引く。日本語の「オ」とは違って、唇が丸まって突き出ている。

④ [ə] と [a]

・ [ə] 対応する綴り：e, 単語の例：le

「あいまい母音」、あるいは「不安定な e」と呼ばれる。フランス語で、唇や舌の緊張が抜ける唯一の母音である。母音の体系図で [œ], [ø] に隣接することからもわかるように、[œ] や [ø] と区別せずに発音するフランス語話者もいる。

言葉を探して「あー」と言う場合の音は [œ] に近く、「うんとー」の「う」と言う場合は [ø] に近い。実際にフランス語話者の発音の実験において、音素の分布を示したフォルマントでも広い分布が確認できる。

・ [a] 対応する綴り：a, à, â, 単語の例：page, là, pâte

他にも femme [fam], couramment, récemment

上掲の母音体系図で確認できるように、もともと、[a] と [ɑ] の音に区別して発音されていたが、[ɑ] は [a] で代用されるようになる。

[a]



唇の形は平たい。唇が左右に引かれることは意識しない。口が上下に広く開ける。舌は前寄りに置かれている。日本語の「ア」よりも口の開き方が大きく、明るい音色である。

近年、フランスでFLE（外国語としてのフランス語）の教科書や指導書で、[ɑ]と[a]は区別せずに両方とも[a]の発音でよいという指導がなされている。実際、日本語には「ア」には一種類の発音しかないのだから、フランス人でさえ混同する傾向にある[a]と[ɑ]を区別して学ばなくても十分に事足りる。

とはいえ、鼻母音の[ɑ̃]はこの口腔母音をもとに発音することから、発音の要領を知っておくことは重要であろう。

では、[a]に取って代わられた[ɑ]はどのような音か。

[ɑ]を発音するとき、唇の形は丸い。唇が左右に引かれてから、今度は口の端を内側に向けて唇を丸めてくる。舌は前の中心部が多少へこみ、後ろ寄りに置かれている。日本語の「ア」よりも口の開き方が大きく、[a]に比べると、暗い音色である。

2) 鼻母音

[ɛ̃] [ɑ̃] [ɔ̃]

軟口蓋の後部はやや長めの棒状になって垂れ下がっている。この棒状になった部分を含めて、軟口蓋の後部はせり上がるように後方に移動したり、前方にせり出すようにずり下りたりして、鼻腔への通路を閉じたり、開いたりする。口腔母音では上がっているが、鼻母音と、後述する子音の鼻音(m, n, ɱ)を発音するときには、下がっている状態になる。

[ɛ̃] (対応する綴り : in, im, yn, ym, ain, aim, ein, eim, (é)en, (i)en, un, um, oin, 単語の例 ; lapin, impossible, synthèse, sympa, pain, faim, peinture, Reims, européen, italien, un, parfum, loin) ほかにも agenda, examen など

もともと、フランス語教授法では、un, um とつづる場合は、[œ]を鼻音化して発音すると指導していた。しかし、フランス、特にパリ盆地を中心とする地方でこれを区別して発音する習慣がなくなりつつあることから、[ɛ̃]を鼻音化させる発音で代用することが一般的になっている。

[ɛ]



[ɛ] を発音するとき、口の端を左右に引き、上下への開口を行い、舌は前方に置かれている。これを鼻音化させると、明るい音色の鼻母音になる。

[ā] 対応する綴り：an, am, en, em, enn, emm, 単語の例：an, lampe, ensemble, remplir, ennuyer, emmener, ほかに paon, faon, taon, Caen, Jean



前述のように、[a] を鼻音化した音である。

口を広めに開き、舌を後ろに引っ込めることを意識して、[a] を鼻音化させる。

[ɔ̃] 対応する綴り：on, om, 単語の例：pont, nom



狭い [ɔ] の発音を鼻音化させる。

唇を丸めて、舌を奥に引くことを意識するとよい。暗い音色の音になる。

3) 子音

	両唇音	唇歯音	歯茎音	後部歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	口蓋垂音
破裂音	p/b		t/d		*	k/g	
鼻音	m		n	ɲ		(ŋ *)	
摩擦音		f/v	s/z	ʃ/ʒ			ʀ (r, R)
側面接近音			l				

フランス語では、そり舌音、咽頭音、声門音、あるいはふるえ音、はじき音、側面摩擦音、接近音は存在しない。

①閉鎖子音 [p] - [b] [t] - [d] [k] - [g]

閉鎖子音とは、唇と唇で呼吸の通り道をふさぐことのできる子音である。

[p] - [b] 両唇破裂音

[p] に対応する綴り：p, (s の前の) b, 単語の例：pot, absolument

[b] に対応する綴り：b, 単語の例：bus



口、唇、舌の形は [p] でも [b] でも同じである。[p] が無声なのに対して、[b] は有声である。無声の発音をする場合、声帯に手で触れても、震えが感じられないが、有声の発音をする場合、声帯に手で触れると、震えが感じられる。

[t] - [d] 歯茎破裂音

[t] に対応する綴り：t, 単語の例：ton

[d] に対応する綴り：d, 単語の例：date



英語の [t], [d] は、舌の先を上歯の歯茎につけるが、フランス語の [t], [d] は舌の先を上歯の歯の裏につけて発音する。

[t] が無声なのに対して、[d] は有声である。

[k] - [g] 軟口蓋破裂音

[k] に対応する綴り：k, qu, (a, o などの後ろの) c : 単語の例：képi, quelque, cacao

[g] に対応する綴り：g, gu 単語の例：gant, gague



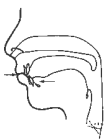
舌の後部が盛り上がり、軟口蓋に接した状態から、呼気を閉鎖し、破裂させる音である。

[k] が無声なのに対して、[g] は有声である。

② 鼻子音 [m] [n] [ɲ] / [ɳ]

鼻母音で説明したように、軟口蓋の後部はやや長めの棒状になって垂れ下がっている。この棒状になった部分を含めて、軟口蓋の後部はせり上がるように後方に移動したり、前方にせり出すようにずり下りたりして、鼻腔への通路を閉じたり、開いたりする。鼻子音 (m, n, gn) を発音するときには、下がっている状態になる。

[m] 対応する綴り：m, 単語の例：maman



両唇を閉じて、鼻から呼気を出す。

日本語のマ行と同じように発音する。

発音できているかを確認するには、小鼻を触ってみて、震えが伝わっていればよい。

[n] 対応する綴り：n, 単語の例：non

舌先が上の歯の裏側の歯茎に接して、呼気を鼻から通す。広く舌の前側が硬口蓋に接する。



[ŋ] 対応する綴り：gn, 単語の例：montagne

ŋ

舌の前側が硬口蓋に接して、呼気を鼻に通過させる音である。日本語でも猫が「にゃあ」と鳴くときの「にゃ」の音に近い。



[ŋ] 英語の -ing の発音に相当する。単語の例：camping

もともとフランス語にはなかった音だが、英語の単語がフランス語に流入することによって生まれた。この音は語尾のみに見られる。camping のほかにも baby-sitting, footing など、英語起源の単語での発音となる。

発音するとき、舌の奥が軟口蓋に接して離れず、鼻から呼気が出る。フランス人の発音は、舌を軟口蓋から離して、息を抜くようにして発音している。

③狭窄子音（摩擦音） [f] - [v] [s] - [z] [ʃ] - [ʒ]

[f] - [v] 唇歯摩擦音

[f] に対応する綴り：f, ph, 単語の例：pot, photo

[v] に対応する綴り：v, 単語の例：voiture

下唇を軽く上唇に触れる状態で息を出すと、擦れるような音になる。

[f] が無声なのに対して、[v] は有声である。



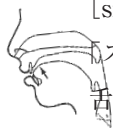
[s] - [z] 歯茎摩擦音

[s] に対応する綴り：s, (i, e などの後ろの) c, 単語の例：si, ciel, ce

[z] に対応する綴り：z, (母音に挟まれた) s, 単語の例：zut, -maison

[s] が無声なのに対して、[z] は有声である。

[si] は日本語の「シ」ではなく、「スイ」となる。同じく [zi] は「ジ」ではなく、「ズイ」になる。



舌先を下歯の裏側に軽く当てて発音する。日本語の「ザ行」の場合、単語の初めでは舌の先が上の歯茎に接触して、歯擦音の [dz] になる。フランス語ではこのような音はなく、舌の先を上あごに触れないように、すきまを開けて発音する。

[ʃ] - [ʒ] 後部歯茎摩擦音

[ʃ] に対応する綴り：ch, sch, 単語の例：chez,

[ʒ] に対応する綴り：g, j, 単語の例：rouge, je

[ʃ] が無声なのに対して，[ʒ] は有声である。



唇を丸めて前へ突き出し，舌尖を上**に強く反らせて発音する**。舌自体は中心がくぼんだ形になる。

④ 流音 [l] [ʀ]

[l] 歯茎音 対応する綴り：l, 単語の例：la, journal

舌尖が上の歯の裏側に接して，呼気が舌の両側から通る音である。日本語のラ行と同じように発音すればよい。



[ʀ] (r, R) 口蓋垂音 対応する綴り：r, 単語の例：rire, bonjour

この音は，うがいをするような，あるいは，いびきをかいているような，フランス語特有の音である。軟口蓋の先にある口蓋垂があるが，その前の部分に，舌の奥の部分が盛り上がって接近し，その隙間を呼気が通るときの音である。

発音方法は，まず，舌の奥の盛り上がった部分（舌の山）を上を持ち上げて，口の中に上あごの奥のやわらかい部分（軟口蓋）につけようとしてみる。舌尖は下の前歯の裏側につけて，離さないようにする。「グ」と言ってみるが，だんだん，息が通る通路を開けてやるように舌の奥の山を少し緩めると，隙間から呼気が漏れていく。これがrの子音である。舌が下の前歯の裏側についているかを確認しながら練習するとよい。この音を習得するにはたいてい時間がかかるので，うまく出来ないからといって焦ることはない。

rの読み方を日本語表記するときには，「ラ行」で行うことが多いが，日本語のラ行は舌の先が上あごについているのに対して，フランス語のrの音は，下の前歯の裏についているので，まったく違っている。カタカナ表記をすることで，フランス語らしい発音が身につかないという弊害もあるが，あえてカタカナで表すなら，rの音の発音をどちらかといえば近い音になるカタカナの「ハ行」で示すことを提案する。

[ʁ] (r, R)



⑤半母音（半子音） [j] [ɥ] [w]

半母音は、ひとつの音節を作れず、後ろに母音を伴って発音する。母音より短く発音する音である。ひとつの母音を形成できないことから半子音と呼ばれることもある。

[j] 対応する綴り：i+ 母音, y, il(le) 単語の例：quartier, moyen, billet

母音の [i] の呼気の通りを狭くして発音する。舌の盛り上がっているところは [i] よりもやや後ろで上あごに近づけ、息を強くして発音する。



[ɥ] 対応する綴り：u + 母音, 単語の例：huit

母音の [y] の呼気の通りを狭くして発音する。舌の盛り上がっているところは [y] よりもやや後ろで上あごに近づけ、息を強くして発音する。



[w] 対応する綴り：oi, oï 単語の例：moi, boîte

唇を突き出し、その中心に力を入れて発音し、次の母音につなげる。



おわりに

本研究では、音声学研究を参照しながらも、初学者が初めて出会う外国語を自発的に使う場合でも再現できるよう、実際に資料を参照することを視野に入れている。

そしてフランス語学習の目的は、フランス語初学者が学びの早い段階で正確な発音を身に着け、発話することである。ネイティブのように発音するのではなく、意思疎通に支障をきたさないよう、隣接する音と混同せずに発音できることを目指す。

一方で、言葉は時代とともに変化し、なるべく発音しやすいように、音素の種類が減る傾向がある。最近の傾向として、[a] と [ɛ] が他の音素を代用することが挙げられる。本資料では、フランス及びフランス語圏で実際に耳にするように、16ある口腔母音を15に、4ある鼻母音を3に減

らしている。

謝辞

「母音発声表示ソフト」などのフランス語の発音に関する資料をご教示くださった菊地歌子先生に感謝の意を表します。

参考文献

(日本語文献)

- 1) 小島慶一『発話直前に想起される音声連鎖の構造 フランス語学習を例として心象音声の応用』(外国語学習法についての研究ノート), 駿河台出版社, 2017年。
- 2) ジャクリース・ヴェシエール『音声の科学』中田俊介, 川口裕司, 神山剛樹訳, 白水社(文庫クセジュ), 2016年。
- 3) 菊地歌子『フランス語発音指導法入門』関西大学出版部, 2014年。
- 4) 大岩昌子『10日間でフランス語のスペルが読める!』駿河台出版社, 2013年。
- 5) 藤田裕二, ミドリ・ティオリエ『聴くと話すが同時に身につくフランス語シャドーイング』DHC, 2013年。
- 6) 菊地歌子, 山根祐佳『フランス語発音トレーニング』白水社, 2010年。
- 7) 阿南婦美代『コミュニケーションのためのフランス語発音法 発音の規則と練習』駿河台出版社, 2006年。
- 8) 中村萬里, 永淵道彦『音声言語とコミュニケーション』双文社出版, 2001年。
- 9) 稲田晴年『フランス語の綴りの読み方』第三書房, 1999年。
- 10) 大木充, 東郷雄二『目でみるフランス語発音入門』駿河台出版社, 1989年。
- 11) 天沼寧, 大坪一夫, 水谷修『日本語音声学』くろしお出版, 1978年。

(教科書)

- 12) Chanèse Kamoun, Delphine Ripaud, *100% FLE Phonétique essentielle du français*, B1/B2, Didier, 2017.
- 13) Chanèse Kamoun, Delphine Ripaud, *100% FLE Phonétique essentielle du français*, A1/A2, Didier, 2016.
- 14) Dominique Abry, Marie-Laure Chalaron, *Les 500 exercices de phonétique niveau B1/B2*, Hachette, 2016.
- 15) Janick Magne, 東辰之介, 林ゆき, 鈴木雅生, 田口亜紀, *Escapades*, 駿河台出版社, 改訂版, 2016年。

(フランス語文献)

- 16) G. Briet, V. Collige, E. Rassart, *La prononciation en classe*, « Les Outils malins du FLE », Presses Universitaires de Grenoble, 2014.
- 17) Yvon Rolland, *Apprendre à prononcer. Quels paradigmes en didactique des langues?* Belin, 2011.
- 18) Dominique Abry, Marie-Laure Chalaron, *Les 500 exercices de phonétique, niveau A1/A2*, Hachette, 2010.

(定期刊行物掲載記事・論文)

- 19) 田口亜紀「つづり字と発音」『まいにちフランス語』NHK出版(NHKラジオ・フランス語講座テキスト), 2017年4月号~9月号連載(2017年3月~8月刊行)。
- 20) Sublime, 小西英則, « Le labo phonétique », 白水社『ふらんす』2017年4月号~。